

収蔵品展

楽天の世界漫遊Ⅲ

Rakuten-world journeyⅢ 1929-1930
Expand to the world - Establishment of Sanko Manga Studio

世界を感じて

～わが道を拓く、三光漫画スタジオ開設編

漫画家・北沢楽天、 世界への扉を開く旅

MANGA Artist Rakuten Kitazawa, opens the door to the world with MANGA.



北沢楽天・いの夫人(浅間丸にて)



浅間丸(乗船客サイン)

入館無料

令和6年 2月24日⑤～5月12日⑥

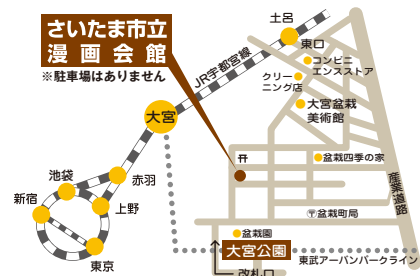
さいたま市立漫画会館

〒331-0805 さいたま市北区盆栽町150 TEL 048-663-1541 FAX 048-667-4921

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌平日

開館時間 9時～16時30分

交通機関 東武アーバンパークライン大宮公園駅から徒歩5分
JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩15分



このチラシは10,000枚作成し、1枚あたりの印刷費用は14円です。

新情報発見!!



1 世界漫遊の全貌が明らかに!

ぜんぼう

新たに楽天が記載した日記より、昭和4年(1929)に楽天がどこで何をしていたのか等、世界漫遊の動向が判明しました。本展では、日記から推測され、現地で描いたとされる絵画や下絵を展示します。



2 旅行鞆ではなかった!?

旅行鞆にしてはちょっと小さい…と思われていた革製の鞆。調査の結果、絵具の付着等から画家の商売道具である画材道具を入れた鞆であることがわかりました。



本展では、3期を通じてこの鞆を当時の資料と共に展示します。鞆には世界各国のホテルのラベルが当時の状態のまま貼られています。約100年前の世界旅行を感じられる鞆やラベル等もお見逃しなく。

3 旅には壮大な目的があった!!

世界漫遊の旅先から、世界の状況をつぶさに時事漫画にした楽天。当時の様子は、時事漫画だけでなく、日記や日本に残るいの夫人に多くの手紙を記しています。驚くべきことに、楽天の死後の夫人は、そうした楽天の日記や手紙を大切に保存していました。貴重な当時の資料から、世界漫遊の目的は単なる観光旅行ではなく、パリでの絵画教室の仕組みを体験するほか、印刷技術の進んだドイツから印刷機の輸入を試みる等、日本の漫画界発展を目指したものだということがわかりました。



ニースの謝肉祭『時事漫画』449号



オランダ印象記『時事漫画』452号



ドレスデンから楽天が送った絵葉書



芝白金三光町邸(漫画スタジオ)



アトリエ(漫画スタジオ)

ギャラリートーク

学芸員がわかりやすく、楽しく展示解説をします。※手話通訳あり

日時：令和6年2月25日(日)、3月17日(日)、4月21日(日)

各日13時～(約30分)

参加無料

申込不要

展示概要

さいたま市が世界に誇れるもののひとつに、日本近代漫画の先駆者・北沢楽天の存在があります。その邸宅跡に建つ漫画会館には、楽天自身の作品はもちろん、一世を風靡した漫画家として楽天が世界中から蒐集した美術資料や漫画に関する資料が数多くコレクションされています。

楽天の世界漫遊シリーズ展の第3回となる本展では、昭和4年(1929)から翌年にかけて、パリを拠点に“世界漫遊”の旅に出かけた楽天の軌跡から、イギリス、欧州周遊の滞在に焦点をあて、現地で描き、一年余りにわたって表紙を飾った『時事漫画』(『時事新報』日曜付録)などの作品や北沢楽天の邸宅に遺されていた資料を中心にご紹介いたします。

また最新の調査で判明した、世界漫遊中に欧州で描き、ロンドンでの個展に出品した絵画「国技館」と、楽天が現地で描いた絵画「盆踊り」の下絵を初公開します。

楽天が世界から発信したカラフルでいきいきとした未知の世界。その遭遇を目の当たりにした、昭和初期の人々の感動と驚きを想像しながらご覧いただけますと幸いです。

同時開催

常設
展示室

新1万円札発行記念 北沢楽天と渋沢栄一 特別展示

渋沢栄一(1840～1931)は、我が郷土埼玉の出身で、日本の近代産業の先駆者であり指導者として実業界を牽引しました。令和6年(2024)7月3日には新1万円札の顔となる渋沢栄一の姿を、楽天は風刺漫画にして度々描いていました。

本展では、明治38年(1905)から明治42年(1909)にかけて、楽天主筆のカラー漫画雑誌『東京パック』に掲載された、楽天による渋沢栄一の風刺漫画を特別展示します。



実業寺本尊観世音菩薩

漫画会館 —北沢楽天・漫画のルーツ—

漫画会館は、昭和41(1966)年にできた日本初の漫画に関する美術館です。世界中で多くの人々が親しんでいる“MANGA”、その漫画の歴史を今に伝える漫画会館は、これからもさいたま市の貴重な漫画の文化を受け継ぐ場所であり続けることを目指しています。